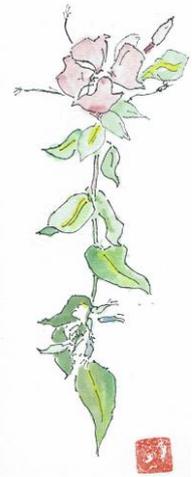


道

2017・11・29

通信 No 1466



本日の練習 3部中山先生

- ・タベの鐘、私のたき火
- ・やなぎ
- ・鉄路の歌
- ・アムール河の波（ロシア語）

12月6日（水）3部 中山先生

全曲楽譜持参ください

第1部の「向こうの小川で」の七番の
歌詞の訂正をお願いします。
(誤)おうし → (正)めうし

本日の片づけは
ソプラノとバス

本日、休憩時間に臨時運営委員会を実施します。廊下に集合してください。

《ウクライナについて その3 ～ウクライナ民謡について～》 T岡田紀久生

ロシア民謡とウクライナ民謡の間に取り立てて言う程の差異はないが細かく見れば歴史・地理・言語の違い。同じスラヴ系であっても存在する民族的な違いなどの相違はある。

ロシア民謡は882年オレーグ公が統一したルーシの国、キエフ公国の叙事に始まる。オレーグ公の親戚である「イーゴリ公」などの英雄の業績や外敵との戦いを称える朗詠調の歌が、吟遊詩人によって各地に普及された。ヨーロッパの吟遊詩人は王侯貴族の傭い楽師が多かったのに対し、ルーシでは民衆の中でも盛んに歌い広めたため豊富な民謡が生み出されたと考えられる。

キエフはウクライナの首都であるため、ウクライナとロシアの文化は深いつながりがある。13世紀以降はリトアニア、ポーランドなど他国からの侵略、侵攻を受け、18世紀にはロシア領になるという屈従の歴史が吟遊詩人の歌にも表れ、英雄や戦争の勝利の歌の他に捕虜になった若者の嘆きや民衆の苦しみ、船曳の貧しい生活など悲しく、暗い歌が歌われた。こうして民族的叙事詩「ドゥムカ」が生まれた。「雪白白く」「我が思い我が歌」「バンドウーラを弾きながら」などはその代表的な曲で有名詩人の詩にもとづく歌が多い。

他方、西欧にも近く温暖な気候と肥沃な大地などから非常に明るいテンポの早い民謡もたくさんあり。「コパック（ウクライナ語ではホパック）」と呼ばれる踊りと囃し言葉や掛け声が入っている曲も多い。「森はざわめく」「むこうの小川で」「小川の洗濯場」はこのタイプ。

以上参考文献 北川 剛著 「ロシア民謡の歴史」

蒲生 眞郷著 「ロシア民謡 ソビエト歌曲」

鈴木 理生著 「川を知る事典」

朝日新聞社刊 「世界の地理」

《 今後の会議予定 》

12月6日(水) 2時30分～ 運営委員会

12月20日(水) 4時～ 企画選曲委員会

・49周年、50周年関係の内容検討します。

・アンケートの記入ご協力お願いいたします。